



TITLE:

静脩 Vol. 9 No. 1 (1972.7) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 9 No. 1 (1972.7) [全文]. 静脩 1972, 9(1)

ISSUE DATE:

1972-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65946>

RIGHT:

書 齋 と 図 書 館

柳 父 琢 治

大学紛争で声高く言われたことの一つは大学解体という言葉であった。この言葉にさそわれて一つの疑問というか空想を持つようになった。もしある日突然にわれわれ日本人が何千人か何万人か何も過去の文明の遺産を持たずにどこかの無人島に漂着したとしたらどういう生活が始まるだろうか、という問である。第一は食料の確保であろう。次は着るものである。大学は何時頃必要を感じられるか、等と空想するのは楽しいようでもあるがいろいろ問題も出てくる。何県出身者だとか、何大学出身者だとかが集って、身内と他所者とをきびしく区別する社会が出来るのではあるまいかと、自分の家族の暮らしを守ることに精根を尽くしたあげく曲がりくねった野良道が残るのではあるまいかといろいろ空想する。抽象的に言うとなれわれが本来持っている固有の生活パターンはどんなものか、という問題である。その問題のなかに、日本の社会での公共性の考え方と、西欧市民社会での公共性とはどうも違うのではないか、という疑問がある。

マルクスが大英博物館に通って資本論を仕上げたというのは有名な話であるが、日本で伝記作家とか歴史小説家とか考証作家とかいわれている人で、図書館だけを頼りにする人は恐らくいないであろう。皆自分で集めた蔵書の中に埋もれて仕事をしておられるようである。大学の先生で、給料を全部はたいて参考書を買ひ込み、家がほんとに傾いたというのが学者らしい学者とされた。今でも、アメリカ物理学会に加入しているアメリカ人以外の会員の数を比較すると、フランス、イギリス、ドイツを抜いて圧倒的に日本人が多い。私の勝手な解釈であるが日本では公（おおやけ）は常にお上（かみ）であり、私事は何時もお上の許す範囲でしか行ない得なかったのではないか。自分の好きなように書物を利用するためには私有する以外に道がない、ということを示している。私事を守るために公共の施設を作るという発想はめつたに出て来ない。市民が金を出し合って夜警を傭うという発想と、お上が警官を配置して監視するというパターンとの相違がこういう学問の世界にもある。西欧市民社会で公共というのは私事の一部ではないか。自分のうちにある公共性ではないか。庭を塀の中にしまいこんで自分だけが楽しむとか、秘蔵の品は倉にしまいこんでめつた人には見せないとかいう習慣も考えて見れば公が常にお上であり、公共は常に私生活をおびやかすものであった時代に庶民が自分の生活を守るための知恵ではなかったという気がする。

今の日本の大学の制度とか、講義、演習、学生実験、野外実習、クラブ活動、さらに大学図書館とかいった形態はすべて舶来品であちら製である。所が生れは西欧でも日本に入ると日本的パターンに変質してしまう。講座制が家族制に取って替られ、研究室の図書は教授の私有物視された。それがいけないとなって図書を一箇所に集めた所では、文献マニヤの傾向のある人が長期間多数の図書を借出してしまつて他の人が利用出来ないという現象が生じている。独占の主が教授でなくなっただけで、多数の図書を独占したいという考えは消えていないのである。

図書館とか博物館とか美術館とか劇場とかいった公共文化施設を考え出したのは西欧の公共観であろう。自分のための書齋である公共図書館と、単に書庫の名前が変っただけの図書館とは利用のし易さに大きな差がある。その源は公共性と私事との関係をどうとらえるかの違いではないか。これが私の現在の疑問である。（化研・附属原子核科学研究施設長）

プリンストン大学出版部 寄託図書目録 第6回～8回まで (その1)

本館は、アメリカの大学出版部協会の日本における「寄託図書館」(Depository Library)として指定され、すでに、プリンストン大学出版部から5回にたわって約140冊が寄託されています。新着寄託図書は参考図書室(2階)に展示しています。リストの中で刊行年のつぎの丸括弧内の記号は、図書の請求記号です。

I Philosophy

- Jung, C. G.: Alchemical studies. (Collected works Vol. 13) 1967. (1-6, J, 17)
 Jung, C. G.: Psychology and alchemy. 2. ed. (Collected works Vol. 12) 1967. (1-6, J, 18)

II Social sciences

- Bachofen, J. J.: Myth, religion, and mother right. 1967. (2-3, B, 21)
 Douglas, Jack D.: The social meanings of suicide. 1967. (2-0, D, 24)
 Dunn, Mary Maples.: William Penn. Politics and conscience. 1967. (2-6, D, 37)
 Eller, Vernard.: Kierkegaard and radical discipleship: A new perspective. 1968. (2-1, E, 28)
 Hamilton, Richard F.: Affluence and the French worker in the Fourth Republic. 1967. (2-7, H, 91)
 Hodgson, John H.: Communism in Finland. A History and interpretation. 1967. (2-0, H, 36)
 Hollerman, Leon.: Japan's dependence on the world economy. The approach toward economic liberalization. 1967. (2-7, H, 90)
 Masters, Roger D.: The political philosophy of Rousseau. 1968. (2-6, M, 83)
 McDonnell, Kilian, O. S. B.: John Calvin, the church, and the Eucharist. 1967. (2-1, M, 70)
 Miller, Linda B.: World order and local disorder. 1967. (2-6, M, 82)
 Preller, Victor.: Divine science and the science of God: A reformulation of Thomas Aquinas. 1967. (2-1, P, 55)
 Ward, Robert E.: Political development in modern Japan. 1968. (2-6, W, 44)
 Westoff, Charles F. & Potvin, Raymond H.: College women and fertility values. 1967. (2-7, W, 61)

- Wolfenstein, E. Victor.: The revolutionary personality: Lenin, Trotsky, Gandhi. 1967. (2-0, W, 29)

IV Literature

- Alpers, Paul.: The poetry of the Faerie Queene. 1967. (4-2, A, 39)
 Bolton, W. F.: A history of Anglo-Latin literature, 597-1066. Volume 1: 597-740. 1967. (4-2, B, 140)
 Brombert, Victor.: The novels of Flaubert. A study of themes and techniques. 1966. (4-4, B, 105)
 Hanneman, Audre.: Ernest Hemingway: A comprehensive bibliography. 1967. (4-2, H, 123)
 Johnson, James William.: The formation of English neo-classical thought. 1967. (4-2, J, 33)
 Keeley, Edmund & Sherrard, Philip.: George Seferis, collected poems (1924-1955) 1967. (4-5, S, 86)
 Lewis, R. W. B.: The poetry of Hart Crane: A critical study. 1967. (4-2, L, 126)
 Maguire, Robert A.: Red virgin soil: Soviet literature in the 1920's. 1967. (4-9, M, 6)
 O'Brien, Darcy.: The conscience of James Joyce. 1968. (4-2, O, 11)
 Peterson, Douglas L.: The English lyric from Wyatt to Donne. A history of the plain and eloquent Styles. 1967. (4-2, P, 65)
 San Juan, Epifanio, Jr.: The art of Oscar Wilde. 1967. (4-2, S, 208)
 Shumaker, Wayne.: Unpremeditated verse: Feeling and perception in Paradise Lost. 1967. (4-2, S, 10)
 Stange, G. Robert.: Matthew Arnold, The poet as humanist. 1967. (4-2, S, 209)
 Turner, E. G.: Greek papyri: An introduction. 1968. (4-0, L, 112)

一特集一 閲覧室の現状と問題点 (その3)

医 学 図 書 館

医学図書館は昭和40年、部局図書館としてはめずらしく独立の建物として新築された。それだけに各方面から注目されたが7年を経過した現在、初期の計画とは及びもつかない種々の問題をかかえての図書館活動の毎日である。しかし、今回は標記の閲覧室の現状と若干の問題点を指摘するにとどめたい。

いうまでもなく、自然科学関係の図書館は最新の資料・情報をいかに速く利用者(教官・研究者)に提供出来るか、ということにつきると思われるが、一方、学部学生には単行書を中心に系統的読書の場も必要である。

医学図書館は3階、書庫4層の建物で、1階が雑誌閲覧室、2階が単行書閲覧室になっている。書庫は全面開架で、1層に1960年以降の洋雑誌、昭和25以降の和雑誌を収容し、2層に1959年以前の洋雑誌A—B、昭和24年以前の和雑誌、3層に洋雑誌C—Zを配架している。1階の雑誌閲覧室には新着雑誌を展示する雑誌架と40座席の閲覧机がある。2階の単行書閲覧室には閲覧室に全単行書を配架し48座席の閲覧机がある。新着雑誌は到着後1カ月を経過したものは総て貸出し(3日間)をし、またゼロックスによる複写サービスを行なっている。単行書についても同様である。

以上のような現状から問題点を指摘するならば、①雑誌閲覧室はカウンターと書庫が両側にわかれているため、利用者は入口から閲覧室の中央を通して書庫に行くことになる。同様に係員も調査や納庫のため閲覧室をよこぎること。②全面開架方式のため書庫・雑誌架の図書の配列が乱れやすい。③医学図書館建設当初の計画である雑誌の集中化が徹底していないため、特に2層・3層の古い年代の雑誌の整理が充分に行なわれず利用者に不便を与えている。④医学部・病院の教室図書所蔵の雑誌(単行書も)の目録が出来ていないため、カウンターでの文献調査に不便をしている。⑤最後に、立地条件から医学図書館は道路に面しているので自動車等の騒音も悪条件をつくりだしている。

医学図書館は学内の図書館活動の他に、医学図書館協会のもとに活発な相互貸借業務を行なっている。そのために、学内サービスの向上、さらに学外協力のためにも館内整備を急がなくてはならない。しかし現状を見るに種々の問題をかかえ、悪条件の中での図書館活動を行なっているのが現状といえよう。

—————ご存じですか

農学部水産学科図書室の移転について

本年4月、農学部水産学科は舞鶴市から京都へ移転することが決まり、すでに農学部新館の一部に移転を完了しました。

水産学科4講座は、昭和22年(1947)4月、新設が認められ、舞鶴市の旧軍関係施設を譲り受けて発足したもので、京都市から遠く離れ舞鶴市の中心からさらに2軒も離れた海岸地で約25年の間、研究が進められていたわけです。水産学科図書室も学科の新設後まもなく設置され、遠隔地という不便さのなかで、学生・教官のため奉仕してきました。しかし、この度の移転を機会に、水産学科図書室は農学部図書室と合併することになり、水産学科図書室の図書資料の全部を農学部図書室で保管することになりました。なお、水産生物学講座の雑誌も同時に、農学部図書室で保管することに決定しました。

こんど、水産学科の図書を利用されるときはご注意ください。もし、わかりにくいことがあれば、農学部図書室(学内 TEL 6016)におたずねください。

法経両学部の図書の利用停止

法経両学部では、夏季休暇中を利用して本格的な図書の移転が行なわれることになり、6月20日からその準備をはじめ、すでに移転作業にかかっています。そのため、図書の利用を一時停止せざるをえなくなりました。したがって他学部・学外者の利用は、6月20日～10月31日まで利用できなくなりましたから、ご注意ください。

「図書館利用案内 1972」を刊行



附属図書館では、とくに学生の利用のための手引として、このほど写真のとおり「図書館利用案内 1972」を刊行しました。内容は附属図書館の館内略図および各室利用一覧表、図書資料の利用方法、目録検索、参考事務の案内など、本館の利用全般についての案内と、全学の図書館・室配置図および特殊文庫の紹介、学外図書館の利用方法が盛りられています。

表紙の写真(色刷)は、天正10年(1582)に長崎からローマに向けて派遣された少年使節団の肖像画(木版画)の写しです。原画は、1586年アウグスブルグのミカエル・マンゲルによって出版されたもので、元総長浜田青陵博士が昭和の初めオランダのハーグ・ナイホフ書林で水められ、昭和27年に博士の令嗣浜田稔(農学部)・浜田敦先生(文学部)から本館へ寄贈されました。題字は、本館所蔵の「慶長勅版日本書紀・神代篇」から集字(ただし、館と案は作字)したものです。

———展 観

「京都の地誌・史料展」を開催

さる5月24日から26日まで、本館展示室で開かれた上記の展示会には、平安時代から徳川時代末期まで、およそ1000年間の各時代の当地の古い京絵図、「花洛往古図(794)」、「寛永後万治前京洛絵図(1624)」など珍しいものが陳列され、学内関係者や市民などの興味をよび、多くの参観者でにぎわった。そのほかの展示品として、徳川時代刊行の当地の地誌類、ならびに、「四条高倉頼政屋敷伊勢五郎譲状(1232)」の証文、「三条大橋高札」のほか、最近刊行された「図書館利用案内 1972」にちなんで、表紙に使用された木版画「天正遣欧少年使節像」が特別に陳列された。また、遣欧使節関係の文献や8年間にわたる使節の往復経路図と旅程表など、使節派遣の経緯が詳しく紹介された。なお、「図書館利用案内 1972」の題字の底本となった「慶長勅版日本書紀・神代篇」も展示された。



展覧会風景

——講演会

渡辺信一氏講演会 アメリカの図書館事情

〈とき：昭和47年3月17日 ところ：本館会議室〉

ハワイ大学図書館学部に留学され、昨秋帰国された京都教育大学附属高校の渡辺信一氏を迎え、昨夏訪問されたノースウェスタン大学図書館を中心に、新しいアメリカの大学図書館の事情について、スライドを使った講演があった。つねに発展を続けていくアメリカの大学図書館の新しい考え方がうかがわれて、興味深い講演であった。

——会議

昭和46年度第3回国立大学図書館協議会常務理事会

〈とき：昭和47年2月14日 ところ：本館会議室〉

46年度の第3回常務理事会は、久しぶりに本館で開催された。協議事項としては、図書館職員の交流、第2回日米大学図書館会議の件のほか、来年度の文部省図書館関係予算で認められた。情報図書館学の研究、教育体制について討議された。また、英国の東インド会社設立 이래インド独立に至るまでの、インドに関するあらゆる資料を集大成した India Office Papers を、国立大学で協力して購入していく件も、こんご具体的に検討していくことになった。

なお、同日午後は、「新しい大学図書館像」特別委員会が開催され、分担して調査をすすめている事項の中間報告が行なわれた。

近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会

〈とき：昭和47年3月30日 ところ：本館会議室〉

新年度の同協議会の事業計画案の審議のため、委員会を開催。新年度も、委員会活動と研究集会活動の2本建てで事業をすすめていくことになった。研究集会としては、参考業務、業務の機械化、及び図書館施設がテーマとして予定されている。

社史・地方史の委員会報告

前号に報告された通り、去る1月13日（木）に初めて開催されてから第2回の会合を2月24日（木）に、第3回を3月16日（木）にわたって開催した。この2回の会合では主として資料をいかなる範囲でまとめるか、各部局の資料をどういう方法でまとめるか、すなわち、資料の情報交換をどのような方法で行なうか、また実施の時点をどのようにするか、などが討論された。その結果、一応、資料の範囲としては社史業界史・地方史にしぼり、当分は附属図書館が窓口になること、第2回の委員会で資料報告は、とりあえず、昭和46年1月より同12月に至る間のものを持ち寄ることに決定した。したがって、第3回目の会合には各委員からそれぞれの部局の社史（業界史）・地方史の報告が持ち寄られ、各委員からその部局の状況と報告内容についての説明が詳細に行なわれた。

なおこの委員会は、社史・地方史などを従来あまり重要視せず、整理の充分行なわれていない部局もあるので、この機会にすすんで委員会に参加してほしいとの要望が委員の中から出された。

京都大学蔵書統計

(昭和47年3月末現在)

計別 種別 部局別	昭和46年度増加数			果 計			備考
	和 書冊	洋 書冊	合 計冊	和 書冊	洋 書冊	合 計冊	
図 書 館	6,248	759	7,007	308,428	135,966	444,394	
文 学 部	4,074	3,976	8,050	337,700	189,339	527,039	
教 育 学 部	1,278	1,065	2,343	24,315	24,637	48,952	
法 学 部	3,289	3,849	7,138	150,561	212,271	362,832	
経 済 学 部	5,062	2,712	7,774	128,804	139,625	268,429	
理 学 部	826	4,295	5,121	28,446	140,491	168,937	
医 学 部	618	1,223	1,841	25,618	69,509	95,127	
病 院	316	335	651	9,735	20,293	30,028	
薬 学 部	102	578	680	5,977	9,202	15,179	
工 学 部	2,818	7,369	10,187	81,302	143,371	224,673	
農 学 部	3,041	3,267	6,308	115,892	108,401	224,293	
農 場	2	0	2	990	97	1,087	
演 習 林	333	66	399	4,195	1,902	6,097	
教 養 部	8,342	7,616	15,958	140,256	101,474	241,730	
化学研究所	147	845	992	5,766	15,997	21,763	
人文科学研究所	5,224	1,299	6,523	257,263	27,851	285,114	
結核研究所	30	41	71	1,032	1,553	2,585	
原子エネルギー研究所	151	340	491	2,535	4,693	7,228	
木材研究所	67	303	370	3,214	2,827	6,041	
食糧科学研究所	176	430	606	2,458	3,909	6,367	
防災研究所	326	1,045	1,371	4,193	7,074	11,267	
ウイルス研究所	7	267	274	180	2,003	2,183	
経済研究所	936	738	1,674	13,063	7,338	20,401	
基礎物理学研究所	90	727	817	1,880	14,141	16,021	
数理解析研究所	266	3,187	3,453	1,822	24,385	26,207	
原子炉実験所	391	1,091	1,482	4,958	10,379	15,337	
霊長類研究所	59	449	508	286	931	1,217	
東南アジア研究センター	332	804	1,136	1,340	4,644	5,984	
大型計算機センター	37	195	232	164	468	632	
経 理 部	75	11	86	3,996	331	4,327	
施 設 部	40	5	45	785	63	848	
合 計	44,703	48,887	93,590	1,667,154	1,425,165	3,092,319	
金 額	円 113,211,342	円 309,916,606	円 423,127,948				

あとがき：「利用案内」が刊行された。内容に難点はあろうが、まずは喜ぶたい。明治41年刊行の「利用案内」では「図書寄贈諸氏ニ贈ランガタメ」であり、昭和13年刊行では、学生が「常に懐中に携帯し本館利用の伴侶」となるよう編集されていた。今回、300万冊を蔵する京大で図書館が「大学のなかで必要不可欠の機関」として「利用者を心から歓迎しています」という姿勢が喜ばしい。(武内)

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 9, No. 1 (通号44号) 1972年7月15日発行・編集発行人：
岩猿敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表751-2111 (内線) 2610~2642